



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、 分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ④

「学びに向かう力、人間性等」に係る顕在化している課題

学びに向かう力等の育成は、道半ば

◆ 「主体的に学習に取り組む態度、メタ認知等」について

我が国の児童・生徒は、次の割合が低い。

- 自律的に学ぶ自信がある子供
- 自分で課題を立て探究に取り組む子供
- うまくいくか分からないことに意欲的に取り組む子供
- 自分の考えをもつ子供や夢をもつ子供

◆ 「協働する力、持続可能な社会づくり、感性・人間性等」について

- 社会参画の意識は向上傾向だが、依然として他国と比べて弱い。
- 自己有用感が低い。



育成を目指す資質・能力の具体が理解しにくい

◆ 「学びに向かう力、人間性等」として、多岐にわたる要素が列挙されているが、全体像が分かりにくい。近年注目されているウェルビーイングやエージェンシーとの関係も整理が必要である。

◆ 「学びに向かう力、人間性等」に対応した学習評価の観点として「主体的に学習に取り組む態度」を設定したが、前回改訂後に提示された、当該観点の2側面である「粘り強さ」「自己調整」のみで、より大きな資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」が理解される事態が生じた。

自分の人生を大事に生きる

あした みち き ゆう し か
朝 に道 を聞かば、夕べに死すとも可なり。

(訳) ある日の朝、仁の道が分かったならば、私はその晩に死んでしまってもかまわない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）